

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(5/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
未来創造「新・ものづくり」特区 (静岡県浜松市)	3.5	4.0 進捗度 ・産地力の強化 153% ・企業立地による地域産業の振興及び雇用の拡大 65%	3.2 規制の特例等 ・市街化調整区域への企業立地に係る農振法・農地法のガイドラインの弾力的運用 財政支援等 ・総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・市独自の企業立地促進事業 ・耕作放棄地再生事業 ・企業立地奨励費 等	3.3	<p>・農業に参入する企業が一定程度存在し、相当程度農地の活用が図られており、地域内には農業の活力があることがうかがえる。こうした活力を活かして全体の農業振興が図られることが期待される。この領域では全国を代表する優良事例として高く評価することができる。</p> <p>・参入企業の農業経営のフォローアップを今後行って、彼らの定着度をより強固なものとすると同時に、規模拡大の支援を行っていくことが期待される。</p> <p>・企業立地のポイントは人材にあるので、研究開発や大学等との連携を今後考えてみてはどうだろうか。</p> <p>・評価では、小規模な企業立地が多かったために目標値を下回ったという記述があるが、当該特区の目的が新産業創出にあるならば、大規模事業所にこだわる必要性はないと思われる。企業誘致の戦略次第なのでそれを明確にされたい。</p> <p>・多くの目標値に「累計」の数字が設定され、これだと単年度の実績に注目した評価がしにくいことから、単年度ごとの分析が必要であろう。</p> <p>・平成30年度の農畜産物販売額が平成29年度と比較しても、また、当初(平成27年度)と比べても下回っている点が気になる。一時的なものか構造的なものかは今後の推移によって図る必要がある。</p>